

2023年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日

2024年8月1日

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 学校関係者評価委員

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	認定こども園園長
外部関係者	卒業生	1名	福祉施設職員
学校側	学校教職員	2名	副校長、次長

4. 学校関係者評価委員会報告

①自己点検・評価報告及び討議・意見

※評価＝適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目標

(1) - ①理念・目的・育成人材像は定められているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

学園基本理念である「学生第一主義」を念頭に置き、学生が就職3年後に「学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり活躍している」ことを育成目的とし、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。

(1) - ②学校における職業教育の特色は何か

自己評価： 4 、委員会評価： 4

教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成し、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

(1) - ③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。

○課題

- ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(2) 学校運営

(2) - ①目的等に沿った運営方針が策定されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は経営推進会議にて検討し、各校副校長を通じて各職員に周知徹底されている。

(2) - ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

各校の重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の取組みについては、各校副校長より常任理事を通じて報告し、経営推進会議にて状況把握の上、追加施策等を検討している。

(2) - ③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。内容により理事会、経営推進会議、所属長会議、各校で行われる職員会議にて決定し、決定事項については原則全職員で情報共有している。

○課題

- ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特になし

(3) 教育活動

(3) - ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。

(3) - ②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

専修学校設置基準に定められた年間 800 時間以上、課程の修了に必要な総時間数 1700 時間以上を確保しており、学則に明記している。

(3) - ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。専門職業力、社会人基礎力、高い職業意識と意欲について修得目標を定め、それに基づき各学年毎のカリキュラム編成を行っている。

(3) - ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、コロナ禍で制限されたものの対面での授業を基本として実施した。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。

(3) - ⑤授業評価の実施・評価体制はあるか

自己評価： 2 、委員会評価： 3

2019年度より、授業に関する質問を含む、学校生活全般に関するアンケートを卒業時に実施している。結果については、4点満点で、こども未来学科 3.36、こども学科 3.12であった。両学科とも昨年を上回っているが、こども学科が学園平均 (3.35) を下回っている。こども学科の保育士コースには職業訓練生や既卒の学生の割合が多く、高卒入学者との年齢の違いからクラス内の雰囲気は他学科、他コースと異なることも一つの要因と考えられる。

○課題

- ・既卒者と高卒者が混在するこども学科保育士コースでは、他の学科やコースに比べ独特の雰囲気があり、クラス全体の一体感を感じにくい環境となっている。

○今後の改善方策

- ・以前は担任による一体感を得られるような働きかけを実施することもあったが、自然体で年齢差を意識せずに粛々と保育士を目指すような雰囲気づくりを行った方が、満足度が大きく下がることはないのではないかと思われる。

○各評価委員からの意見・指導

- ・同年代でも様々な価値観を持った学生間で意見の違いなどで衝突することもあり、年齢層が違えばなおのことクラス内の調和を保つのは大変かと思う。保育士コースは楽しさや友人関係などの満足度の高さを求めるよりも、資格取得を目指す環境として満足できるかという観点でクラス運営を行った方が良いと思われる。

(4) 学修成果

(4) -①就職率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

就職の多様化に対応すべく、学生の希望を尊重しつつ専門職のやりがいなどを伝え学生の就職支援を行ってきた。2023年度の結果は、卒業生106名、就職希望者106名、就職決定者104名で就職率は98.1%（昨年は98.2%） 専門職への就職者は100名。資格取得は可能であるが一般職を希望する学生も複数名おり、就職の多様化傾向が感じられる。保育分野については引き続き求人も非常に多く、学生にとっては恵まれた環境である。

(4) -②資格取得率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。2023年度の資格取得率は、こども学科98.5%（昨年99.3%） こども未来学科100%（昨年100%）となっており、こども学科で2名資格未取得となっている。

(4) -③退学率の低減が図られているか

自己評価： 1 、委員会評価： 2

例年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。2023年度からは退学者0名の目標として取り組んできたが、結果13名と厳しい結果となった。精神疾患、経済的理由などもあったが、進路変更の理由が最も多く、当初の入学目的である保育者を目指すモチベーションを維持させることが課題と感じる。

○課題

- ・就職については、引き続き求人は非常に多く学生にとっては恵まれた環境であるため、就職希望者については特に問題ないと思われるが、就職を希望しない学生への対応に苦慮している。
- ・退学については、進路変更が一番多く、入学時に抱いた保育者へ憧れを継続させる指導が必要と感じる。資格取得のための学習に疲弊し、目的を見失う学生も見受けられる。

○今後の改善方策

- ・就職については、引き続き就業後の早期離職がないよう、ミスマッチを防止するような就職指導を継続する。就職を希望しない学生への対応は、他業種や正職員に拘らずに、まずは社会に出るという意識を持たせる。
- 退学については、引き続き出席状況など小さなサインを見逃さずに、悩みなどを抱えている学生へ早期の対応を図る。学習の習慣の乏しい学生については、学習計画を立てレポートや試験対策に余裕を持って取り組めるようにする。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育、福祉分野の就職状況は依然厳しいものがあり、現場としては人材確保に苦慮している。しかし、曖昧な気持ちで就職した職員の早期離職ということも課題となっており、望まない学生を無理に就職させる時代ではないと思う。
- ・退学の実績について結果として多くの学生が退学したが、内容を聞くとやむを得ない理由も多いと感じた。学校や教職員のサポートで思いとどまることができるのであれば最大限の援助をする必要があるが、そうでないケースは割り切って対応しないと、教職員の疲弊や他の学生のサポートが疎かになる可能性があるため、注意しなくてはならない。

(5) 学生支援

(5) -①進路・就職に関する支援体制は整備されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。就職希望調査により学生の希望を把握し、個々の状況に合わせた指導を行っている。基本的に就職活動に関しては、学生任せにすることはなく、学校が学生の状況をしっかり把握した上で、相互に納得した就職活動を行っている。

(5) -②学生相談に関する体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。

(5) -③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

学校独自の奨学生制度や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。近年、経済的に困窮している世帯も多く、学費納入に関して画一的な納入方法ではなく、個々の事情に合わせた提案を行っている。

○課題

- ・学校としての対応に限界があるケース（家庭の経済事情、精神的な疾患など）が増えている。ケースバイケースでの対応で、時にはご家庭に判断を委ねる機会もある。

○今後の改善方策

- ・就職については、希望する学生全員をサポートする姿勢に変わりないが、職業選択について個人の考えを尊重し、ご家庭とも協議の上、学生にとって最善と思われる支援を行う。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(6) 教育環境

(6) -①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。

(6) -②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。必要に応じて備品の更新を実施している。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。単位実習前に少しでも現場を理解し慣れるという目的で実施している、保育演習や福祉支援演習では、予め受入れ先との詳細な打合せを行っている。

(6) -②防災に対する体制は整備されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

火災防火の為の組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・特になし

○今後の改善方策

- ・学校設備関係について経年劣化等をチェックするなど適切に管理していく。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

(7) -①学生募集活動は適正に行なわれているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。しかし入学者は減少傾向にあり、募集定員を充足できていない。	
(7) -②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。	
(7) -③学納金は妥当なものとなっているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
毎年、学科単位で経費をチェックし、人件費や諸物価の高騰等を鑑み学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。	

○課題

- ・18歳人口の減少に加え、保育・福祉分野希望者の減少が大きな課題となっている。保育・福祉現場で抱える人材不足に対応できていない。

○今後の改善方策

- ・学生募集活動は学校運営において重要な業務と位置づけ、高校生へ分野の魅力を訴求し本校の特徴を具体的に発信していくことには変わりはないが、学校単位の活動から業界全体での活動にシフトしてかなくてはならないと感じる。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育園を卒園した子どもたちが保育士に憧れてインターンシップ等に参加することがあり、その際に話を聞くと、小さな子どもの対応が上手だと褒められたことがきっかけになっているケースが多い。中学生や高校生も褒められることで、自分は保育者に向いているかもという気持ちになる可能性がある。ぜひ多くの機会に興味のある子どもたちに自信をつけさせて目指してもらいたい。

(8) 財務

(8) -①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
2024年度は、昨年を36名下回る83名の入学者となった。収支状況は単年度で見ると厳しい結果となっているが、学園全体での経営状況は、中長期的に大きな問題はないと考える。今後は広報活動に人材と経費を投下する方針としている。	
(8) -②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。	
(8) -③財務について会計監査が適正に行なわれているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。	

○課題

- ・入学者の確保が喫緊の課題である。

○今後の改善方

- ・学園全体での組織変更を行い、学園全体の広報活動を統括する部署を設置し、全職員で学生募集に関する業務を担うこととしている。学生募集に関する経費も増額し、募集定員の充足を目指す。

○各評価委員からの意見・指導

- ・18歳人口減少、保育分野希望者減少と厳しい状況ではあるが、より多くの入学者を確保して優秀な人材を輩出してもらいたい。

(9) 法令等の遵守

(9) -①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか
自己評価： 4 、委員会評価：
法令を遵守し、適切な運営を行っている。
(9) -②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか
自己評価： 3 、委員会評価：
個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。
(9) -③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
自己評価： 3 、委員会評価：
自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

(10) -①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
自己評価： 3 、委員会評価：
学生の学びの場として地域の子どもたちを招き実践的な授業である「ほせんひろば」を開催している。
(10) -②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
自己評価： 3 、委員会評価：
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋しているが、ボランティア依頼は少なく希望する学生も減少傾向である。
(10) -③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか
自己評価： 3 、委員会評価：
こども学科（保育士コース）では、以前より公共職業訓練（長期高度人材育成コース）の訓練生を受け入れており、2024年度入学者は入学受け入れ可能人数上限の5名が入学した。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし